

第2次久喜市生涯学習推進計画

(久喜市まなびすとプラン2)

【令和5年度～令和9年度】

まなびすとが輝く 久喜のまちづくり



久喜市の生涯学習シンボルマーク



久喜市
K U K I

目 次

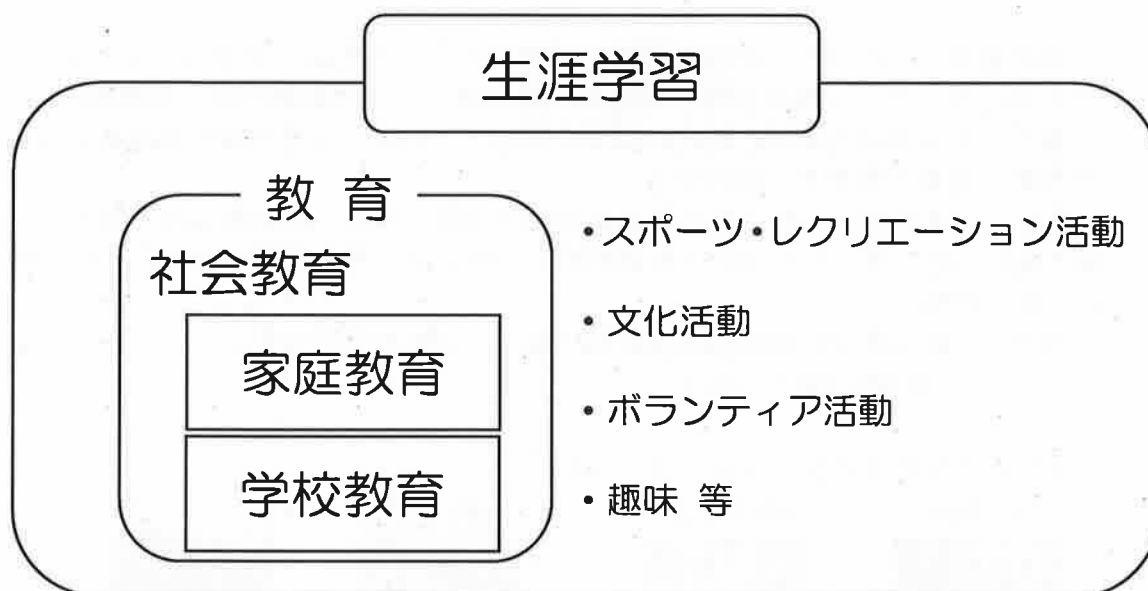
はじめに	1
第1章 計画策定にあたって	2
1 計画策定の趣旨	2
2 計画の期間	2
3 計画の位置づけ	3
4 生涯学習を取り巻く国・県および市の動向	5
第2章 本市の生涯学習の現状と課題	8
1 市民意識調査結果から分かる本市の生涯学習の現状	8
2 本市の生涯学習をめぐる課題と方向性	10
第3章 生涯学習推進の基本理念	12
1 基本理念	12
2 基本方針	14
3 基本目標	14
4 成果指標	15
5 施策の体系	16
第4章 基本目標の展開	17
基本目標1 学ぶ～様々な学びの提供～	17
施策1 ライフステージに応じた学びの充実	17
施策2 共生社会の学びの支援	21
施策3 社会的課題や市民ニーズに応じた学びの充実	23
基本目標2 いかす～学んだことがいかせる機会の充実～	27
施策1 人材の育成・活用	27
施策2 発表機会の充実や学習意欲の向上	29
施策3 ボランティア活動の充実	31
基本目標3 つなぐ～学びでつなぐネットワークの推進～	33
施策1 人材ネットワークの充実	33
施策2 施設ネットワークの充実	34
施策3 地域ネットワークの充実	36
基本目標4 支えあう～学びを支えあう体制づくり～	38
施策1 情報提供体制の強化	38
施策2 相談体制の強化	39
施策3 学校・家庭・地域コミュニティの連携強化	41
第5章 計画の進行管理	43
1 計画の推進	43
2 計画の進行管理	43
3 今後に向けて	43
資料	45

はじめに

「生涯学習」とは

市民一人ひとりが行う学習のみならず、社会教育や学校教育において行われる多様な学習活動を含め、あらゆる機会、あらゆる場所において、だれもが生涯にわたり豊かな人生を送ることができるような学習活動を行うことです。

学習活動とは家庭教育や学校教育、社会教育だけでなく、スポーツ・レクリエーション活動、文化活動、ボランティア活動、企業内教育及び趣味等も含まれます。



「まなびすと」とは

生涯学習をする人の総称です。本市では、これまで久喜市生涯学習推進計画「久喜市まなびすとプラン」に基づき、市民の手による生涯学習を推進してきました。久喜市生涯学習研修大会「まなびすとフォーラム」、久喜市生涯学習推進大会「まなびすと久喜」、久喜市生涯学習だより「まなびすと久喜」など、本市において「まなびすと」という名称は長きにわたり、市民に親しまれています。

久喜市の生涯学習シンボルマーク

平成10（1998）年1月の市民公募による松本 彩さん（当時、久喜中学校1年生）の作品で、「生涯学習の広がり」を表現したものです。



第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

本市では、平成26（2014）年に「～市民がつくる まなびのまちづくり～」を基本目標とする「久喜市生涯学習推進計画（久喜市まなびすとプラン）」を策定し「まなぶ、いかす、つなぐ、ささえあう生涯学習」を推進してきました。

しかし、本市の取組みの成果や課題、社会環境の変化等を踏まえ、平成29（2017）年度に見直しを図ることとし、平成30（2018）年に現行の推進計画を策定し、学習機会の充実や学習成果をいかす環境づくり、学習情報の収集・発信、相談体制の充実、生涯学習推進体制の強化等について取り組んできました。

本計画は、これまでの計画を継続し発展させるとともに、令和4（2022）年3月に行った「久喜市生涯学習推進計画に関する市民意識調査」の結果から、久喜市の生涯学習の現状と新たな課題を把握し、本市の生涯学習を推進するための方針と施策を策定するものです。

そして、本計画により「第2次久喜市総合振興計画※1」の施策目標である「地域に根差した生涯にわたる学びを進め郷土の歴史文化を大切にすることの実現を目指します。

また、「第3期久喜市教育振興基本計画※2」の基本目標3で示したSDGs※3のゴールに向けた計画とします。

【本計画に関連するSDGsのゴール】

「4 質の高い教育をみんなに」「11 住み続けられるまちづくりを」「12 つくる責任 つかう責任」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」



2 計画の期間

本計画の期間は、令和5（2023）年度から令和9（2027）年度までの5年間とします。

なお、計画期間中、状況の変化によって見直しの必要が生じた場合には、適宜、計画の見直しを行うこととします。

※1 第2次久喜市総合振興計画：将来へ向けた久喜市のまちづくりの指針。

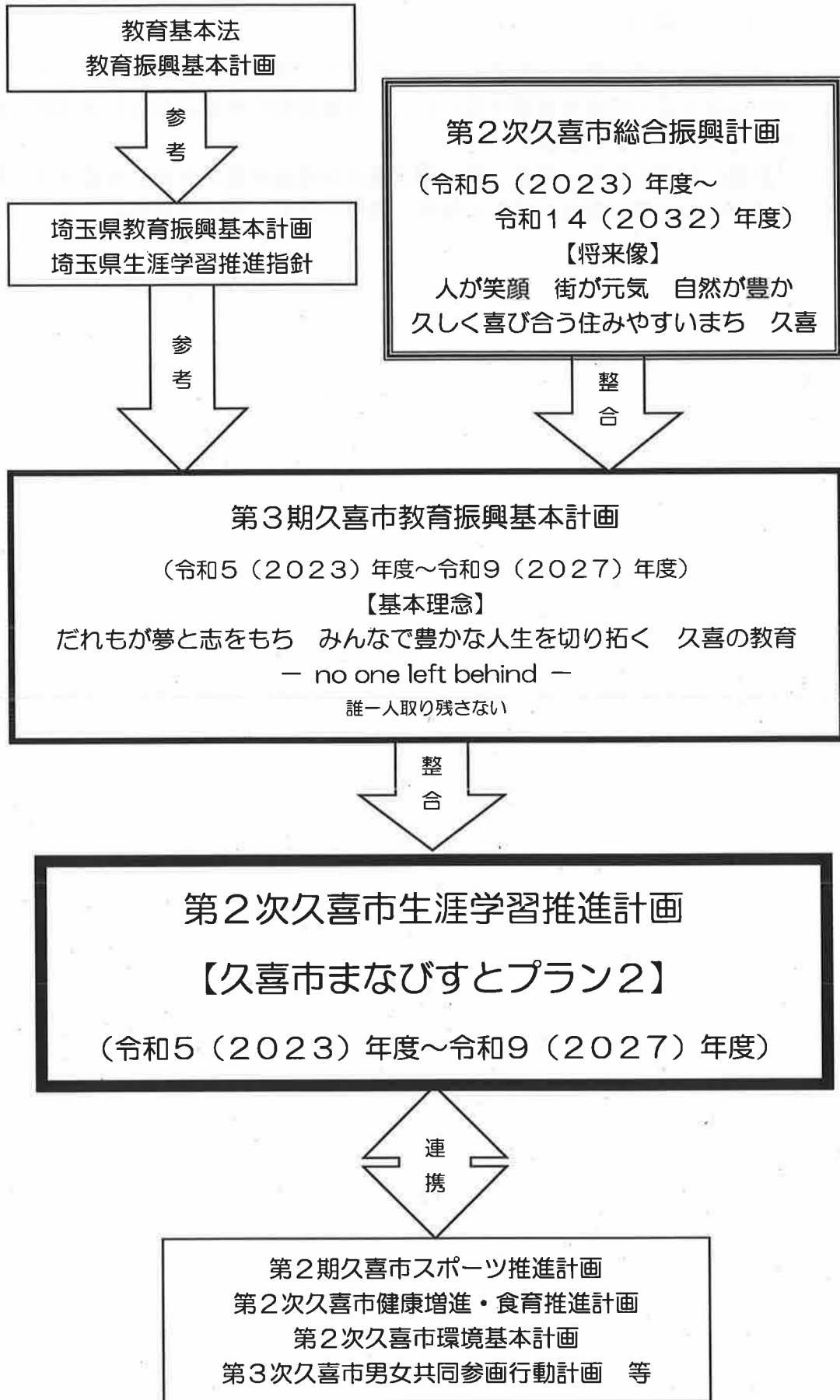
※2 第3期久喜市教育振興基本計画：幼児教育や学校教育、人権教育、生涯学習等の教育行政を総合的に推進していくための基本となる計画。

※3 SDGs（Sustainable Development Goals）：平成27（2015）年9月、国連において採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のこと。17のゴール、169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っている。

3 計画の位置付け

本計画は、市の最上位計画である「第2次久喜市総合振興計画」で示される市の目指すまちの姿を実現するために、生涯学習の推進に向けた基本的な考え方と方向性を定める計画です。

計画の推進にあたっては「第3期久喜市教育振興基本計画」を踏まえ、関連する様々な分野の個別計画との整合・連携を図り、策定するものです。



4 生涯学習を取り巻く国・県および市の動向

(1) 国の動向

平成18(2006)年12月に教育基本法が改正され、生涯学習の理念が「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない(第3条)」と定められました。また、「家庭教育」「社会教育」「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」等の規定が整備され、生涯学習を推進する上での制度的基盤の充実が図られました。

この法改正を受け、平成20(2008)年6月に社会教育法、図書館法及び博物館法の一部が改正され、国や地方公共団体が生涯学習の振興に果たす役割について充実が図られました。さらに、同年7月「教育振興基本計画」が策定されました。

その後、平成30(2018)年に策定された第3期教育振興基本計画では、今後の教育政策に関する基本的な方針の一つに、「生涯学び、活躍できる環境を整える」ことが示されています。そこには、「人生100年時代^{※1}においては、全ての人々が生涯を通じて自らの人生を設計し、学び続け、学んだことを生かして活躍できるようにすることが求められる」とし、「いつでも、どこでも、何度でも学べる環境」をつくることが重要であると述べられています。

そして、教育政策の目標には「人生100年時代を見据えた生涯学習の推進」「人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進」「職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進」「障がい者の生涯学習の推進」が示されています。

(2) 県の動向

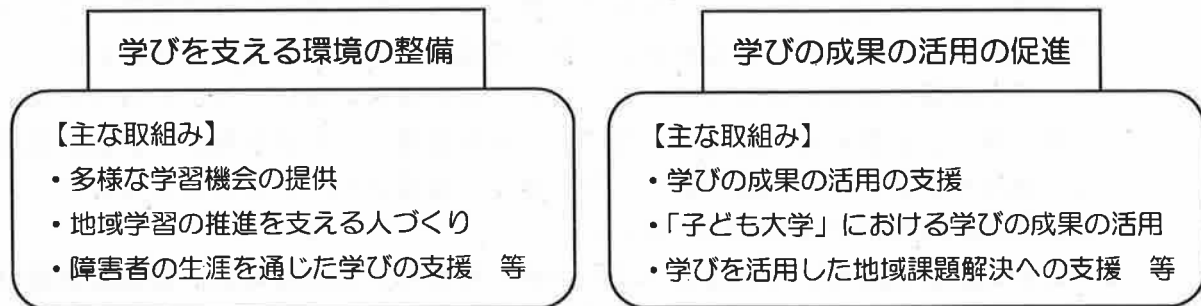
埼玉県においては「埼玉県5か年計画」を踏まえ「埼玉県教育振興基本計画」との整合性を図りながら、生涯学習の分野における基本的な考え方や方向性として示す「埼玉県生涯学習推進指針」を平成25(2013)年3月に策定しました。この指針は、従来の県行政主体の「計画」としてではなく、10年先を見据え、その方策や重点的に支援する分野などを明らかにしたものです。

埼玉県が目指す生涯学習社会は「学び合い、共に支える社会」と捉え、その実現に向けて、「学びを支える」「学び合いを支える」「学びの成果の活用を支える」ことを3つの柱としています。

※1人生100年時代：多くの人が100年以上生きることが当たり前となる時代のこと。

ある海外の研究では、平成19(2007)年に日本で生まれた子どもの半数が107歳より長く生きると推計されている。

また、平成31（2019）年度から令和5（2023）年度を計画期間とした「第3期埼玉県教育振興基本計画」では、「生涯にわたる学びの推進」を10の目標の一つとし、「学びを支える環境の整備」や「学びの成果の活用の促進」に向けた施策が示されました。



(3) 市の動向

【第2次久喜市総合振興計画】

【将来像】

人が笑顔 街が元気 自然が豊か 久しく喜び合う住みやすいまち 久喜

平成22（2010）年3月の久喜市、菖蒲町、栗橋町及び鷲宮町の合併による新市が誕生し、平成25（2013）年度から令和4（2022）年度まで、将来を展望した「久喜市総合振興計画」が平成25（2013）年3月に策定され、大綱の一つに「心豊かな人材を育み、郷土の歴史文化を大切にすまち」を掲げ、様々な施策を展開してきました。

令和5（2023）年度からの「第2次久喜市総合振興計画」では、「みんなが認め支え合い夢や希望が実現でき人材きらめくまちをつくる」ことを基本目標に掲げ、将来像の実現を目指します。

【第3期久喜市教育振興基本計画】

【基本理念】

だれもが夢と志をもち みんなで豊かな人生を切り拓く 久喜の教育

— no one left behind —

誰一人取り残さない

「第2期久喜市教育振興基本計画（平成30（2018）年度～令和4（2022）年度）」では、「未来をひらく心豊かな久喜の人づくり」を基本理念とし、「豊かな生き方を築く生涯学習の推進」を基本目標に掲げて、施策を展開してきました。

令和5（2023）年度からの「第3期久喜市教育振興基本計画」では、「『学び』の多様性に対応した生きがいのもてる生涯学習社会の実現」を基本方針に掲げています。コロナ禍を機に様々な学びの場の形態が見出され、多くの人々が学ぶチャンスを得られる時代が到来しました。今後も「学び」の可能性を広げ、市民一人ひとりが生涯にわたってともに学び、その成果をいかし、幸せで豊かな人生を送ることができる生涯学習社会の実現を目指します。

【第2期久喜市スポーツ推進計画】

【基本理念】

いつでも・どこでも・だれでも・いつまでもスポーツを
生涯スポーツ推進のまち・久喜市

令和2（2020）年に久喜市「健幸（けんこう）・スポーツ都市^{※1}」宣言を行い、スポーツを通じた健康のまちづくりを目指しています。

令和4（2022）年3月に策定された「第2期久喜市スポーツ推進計画」では、第1期計画に引き続き基本理念を維持し、久喜市「健幸（けんこう）・スポーツ都市」宣言の趣旨も踏まえ、スポーツを「する」「みる」「ささえる」、さらに新たな視点としての「つくる・はぐくむ」といった多様なスポーツへの関わり方を通して、市民が「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」、生涯にわたってスポーツ・レクリエーションに親しむことができる「生涯スポーツ推進のまち・久喜市」を目指します。

【第2次久喜市生涯学習推進計画（久喜市まなびすとプラン2）】

「久喜市総合振興計画」「久喜市教育振興基本計画」に基づき、「久喜市生涯学習推進計画（久喜市まなびすとプラン）」を策定しています。第1次計画（平成25（2013）年度～令和4（2022）年度）では、基本目標に「市民がつくる まなびのまちづくり」を掲げ、「まなび」と「いかす」を「つなぐ」「ささえあう」ことで豊かな人づくり、まちづくりを推進してきました。

「文部科学白書2021」には「国民一人一人が生涯を通して学ぶことのできる環境の整備、多様な学習機会の提供、学習した成果が適切に評価され、それを生かして様々な分野で活動できるようにするための仕組みづくりなど、生涯学習社会の実現のための取組を進めています。」と明記されていることから、第2次計画（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）でも「学ぶ、いかす、つなぐ、支えあう」生涯学習を目指します。

※1 健幸（けんこう）・スポーツ都市：スポーツや運動等を通じて誰もが心身ともに健康となり、笑顔あふれる躍動するまちを目指すため、令和2年3月8日に宣言。

第2章 本市の生涯学習の現状と課題

令和4（2022）年3月に実施した「第2次久喜市生涯学習推進計画に係る市民意識調査」（有効回答数629人/2,000人）において、市民の生涯学習に対する意識・実態やニーズの把握をしました。

ここでは、調査結果の中から主なものを以下にまとめ、本市における生涯学習の現状と課題を明らかにします。

1 市民意識調査結果から分かる本市の生涯学習の現状

（1）生涯学習事業の認知度

★「市民大学」「高齢者大学」「放課後子ども教室」の認知度は約半数

本市が取り組んでいる主な生涯学習事業について尋ねたところ「市民大学」「高齢者大学」「放課後子ども教室」については「詳しく知っている」「おおよそ知っている」「言葉は聞いたことがある」と回答した方の合計が5割から6割でした。

「市民大学」や「高齢者大学」については、令和4（2022）年3月に学びの拠点となる生涯学習施設「まなびすポット」が開所したことから、今後も学生の学び舎として、魅力ある両大学の充実に努めていきます。

また、今後も市ホームページや久喜市公式 SNS、広報紙等、様々な情報手段を使って、市民に周知し、本市が進める生涯学習事業に主体的に参加してもらえるような工夫が必要です。

「出前講座」や「人材バンク」「生涯学習研修大会（まなびすとフォーラム）」「生涯学習推進大会（まなびすと久喜）」など、その他の生涯学習事業についても市民の活用が図られる内容に見直しを図ります。

（2）生涯学習の実態とニーズ

★生涯学習をしていると回答した人は2割弱

生涯学習をしていない理由は「忙しさ」と「きっかけのなさ」

現在、生涯学習をしていると回答した方は、全体で2割弱でした。生涯学習をしていないと回答した主な理由は、「仕事が忙しくて時間がない」や「きっかけがつかめない」と回答している割合が高く、仕事や家事で時間がとれないことや、興味関心のある学習機会に出会えていないことなどが要因と考えられます。今後は、その年代やニーズに合わせた学習機会を創出し、多くの市民の参加促進を図るように努めていきます。

なお、市民が現在行っている生涯学習の上位3つは「スポーツ」「レクリエーション」「パソコン・インターネット」でした。平成28年度に実施した「生涯学習

推進アンケート※₁」の結果とは順位の違いはあるものの、項目については同じとなっています。

「学習をしたいとは思わない」と回答した方は3割弱で、多くの方が何かしら学びたいことがあるということが分かりました。中でも、「健康・スポーツ」「趣味的なもの」の割合が高いという結果になりました。

(3) 生涯学習の方法

★クラブ、サークル等で団体活動をしている割合が高い

今後はインターネットやスマートフォンで学習したい人が多い

生涯学習をしている方法としては、クラブ、サークル等の団体活動をしている割合が3割強と最も高く、次いでカルチャーセンターやスポーツクラブ、民間の講座や教室、公共施設が行う講座や教室となっています。

新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化から、今後はクラブ・サークルや市の講座よりも、インターネットやスマートフォンで学習をしたいと考えている人が多いことが分かりました。情報機器の普及により、個人のライフスタイルにあわせた多種多様な学習方法の選択が可能となったことも一つの理由であることから、対面による学びとオンラインによる学びの機会を提供することも必要であると思われま

(4) 学んだことの活用

★学習の成果をいかしている人は9割弱

自分自身の「趣味や健康管理」にいかしている割合が高い

生涯学習を行っている方が、学んだ学習や活動の成果を、どのような場でいかしているかについては、自分自身の「趣味や健康管理」が3割でもっとも多くなっています。また、学習することで交友範囲の拡大につながったり、家庭生活やボランティアにいかしていたり、学びを自らの生きがいにしていることが分かります。

※₁生涯学習推進アンケート：平成28年に開催された久喜市民まつり、鷺宮コスモスフェスタ、菖蒲産業祭、赤花そば栗橋やさしさときめきまつりにおいて、生涯学習のブースに訪れた市民対象のアンケート。

(5) 今後に向けた生涯学習推進方策

★子どもから高齢者まで、年代に応じた学習機会の充実に期待
生涯学習の情報について一層充実していくことが求められる

市民意識調査において、市が「生涯の各段階に応じた事業」に力を入れていくべきだという回答が2割弱でもっとも多かったです。

「第2次久喜市総合振興計画市民意識調査」においても、生涯学習の振興を進める上で、「子どもから高齢者まで、年代に合わせた学習機会の提供・充実」が半数を占めていることから、ライフステージに応じた学びの充実を図る必要があります。

また、情報提供についても、様々な情報手段を使って市民に広く知れ渡るような工夫が必要です。

(6) 新型コロナウイルス感染症の影響

★場所を選ばず、自分の好きな時間に学習できるオンラインでの
学習ニーズが高まっている

令和2（2020）年からの新型コロナウイルス感染症の影響もあり、インターネットやスマートフォンを利用する人が増加しました。施設の利用制限や多人数で集まれないことから、自宅で学習できるオンライン（リモート）講座などの利用者も増えています。一方で、情報機器を使用しない方、使用したくても使用できない方、必要性を感じない方など、情報格差（デジタルデバイド）も生じています。今後は、市民の生涯学習活動の多様化に対応した取組みが必要です。

2 本市の生涯学習をめぐる課題と方向性

(1) 誰一人取り残さない学びの環境づくり

科学技術の進歩や社会経済の発展、人工知能（AI）の発達、情報通信技術サービスの普及により、生活が便利になっている一方で、情報格差や人権問題などが生じています。また、少子高齢化や核家族化の進行により、交流の希薄化、ひきこもり、いじめ、不登校などによる孤立化、インターネットによる誹謗中傷など多くの課題が山積しています。

このような様々な状況にある市民が、学びたいときに学べるように、学習環境の充実が求められているため、どの世代においても、幅広い分野の学びが提供できるようにしていく必要があります。

これらの課題に対応するために、今後は、国籍、人種、世代、性別、文化、宗教、障がいの有無等に関わらず、価値観や多様性を認め、尊重しあう社会の実現に向けて、だれでも参加できる学習の環境・機会づくりが求められています。

(2) 学びの成果の発揮

本市では、「健幸(けんこう)・スポーツ都市」を宣言しており、市民意識調査では、これから学習したい内容について「健康・スポーツ」と回答した方がもっとも多いことから、健康・スポーツへの意識が高く、今後はそれらに関する学びの場をより充実させるとともに、成果を発揮する場を提供していくことが重要です。

スポーツの分野だけでなく、それぞれがもつ豊かな知識や経験を、子どもたちをはじめ、地域の人々に伝え広めるなど、地域で活躍していただく場を提供することも必要です。

また、市民意識調査において「地域や社会で参加してみたい活動」は、スポーツ・文化活動をはじめ、防犯・防災活動、地域の環境保全や子どものための活動など様々でした。

今後は、市民との協働による活動等を通じて、地域づくり、まちづくり活動につなげていくことも必要です。

(3) 生涯学習関連施設の有効活用

本市では、図書館や郷土資料館、コミュニティセンター、文化会館、中央保健センター、児童館等、様々な公共施設において、市民の交流・活動の場づくりを行っていますが、市民大学、高齢者大学、生涯学習推進部の活動拠点として新たに整備された生涯学習施設「まなびすポット」を基軸として、今後は、市民の多様なニーズに対応した学習内容の提供や発表機会を設けることで、市民の生涯にわたる学びを充実していく必要があります。

また、公民館が令和5(2023)年度からコミュニティセンターになることから、だれもが幅広く利用でき、地域活動の拠点として重要な役割を果たすことが期待されるとともに、引き続き講座を充実させることで、市民に身近な生涯学習活動の場を提供していくことが重要です。

(4) 学習情報の提供・意識啓発

市民意識調査の結果から、本市の生涯学習事業についての認知度が低いことが明らかになりました。生涯学習への関心については、「時間があれば行ってみたい」「行いたいけど、何をしてもよくわからない」と回答した方の合計が6割弱であり、生涯学習を行っていない理由として「きっかけがつかめない」「必要な情報が入手できない」という意見も多いことから、様々なツールを活用し、生活状況や障がいの有無、性別、年齢、国籍等に関わらず、だれもが気軽に学習に参加できる情報提供体制を整えていくことが求められています。

また、講座の情報を必要としている人が多いことから、今後も、様々な媒体を活用して適切に情報発信を行い、学習参加に向けた意識啓発を進めていくことが重要です。

第3章 生涯学習推進の基本理念

1 基本理念

まなびすとが輝く 久喜のまちづくり

「学ぶ」と「いかす」を「つなぐ」「支えあう」ことで豊かな人づくり、
まちづくりを目指します

(1) 学ぶ、いかす、つなぐ、支えあう生涯学習

これまで久喜市においては、市民の手による生涯学習のまちづくりを推進してきました。本計画では、生涯学習をする人「まなびすと」が中心となって、今後も市民で久喜のまちをつくっていくという思い、また、「まなびすと」という呼称をさらに広めていきたいという思いから、「まなびすとが輝く 久喜のまちづくり」を基本理念としました。

そして、これまでの生涯学習推進計画でも継承されてきた「まなび、いかす、つなぐ、ささえあう生涯学習」の表記について見直し、「学ぶ、いかす、つなぐ、支えあう生涯学習」を基本的な考え方として、市民の自らの意思による学習のもと、自己実現を図るとともに、市民の手による生涯学習のまちづくりを推進し、「第2次久喜市総合振興基本計画」にある久喜市の将来像「人が笑顔 街が元気 自然が豊か 久しく喜び合う住みやすいまち 久喜」を目指します。

(2) 久喜市の特性をいかす生涯学習

- ① 久喜市では「生涯学習の提言に関すること」「生涯学習の推進に関する基本的な指針の策定に関すること」を所掌事項とする「久喜市生涯学習推進会議」を設置しています。

また、推進会議が策定した基本的な指針の実現に向けて、市民の意見、要望等を取り入れ、市民の手による生涯学習の推進を行うために、「久喜市生涯学習推進部」を設置しています。市民が参加できる体験型の生涯学習推進事業として、生涯学習研修大会「まなびすとフォーラム」※1、生涯学習推進大会「まなびすと久喜」※2を開催しています。

※1生涯学習研修大会「まなびすとフォーラム」：市民の多くの方々に参加していただき、それぞれの立場から情報交換や地域での課題に対し意見交換を行う場。

※2生涯学習推進大会「まなびすと久喜」：市民に広く生涯学習の楽しさや素晴らしさを体験させるとともに、日頃の学習活動の成果を発表する場。市民の生涯学習意欲を喚起し、新たな「まちづくり創造」へ寄与する。

- ② 久喜市市民大学（まなびすとカレッジ^{※1}）は、平成7（1995）年に2年制の大学として開校し、大学院も設置されています。生涯学習活動やボランティア活動を通じて、まちづくりの担い手及び指導者・リーダーとなる人材を育成することを目的としています。令和3（2021）年度までに市民大学は516名が卒業し、市民大学大学院については190名が修了しています。卒業後は、各種行政委員や社会教育委員、生涯学習推進会議委員等、生涯学習の推進者として活躍しています。
- ③ 久喜市高齢者大学（スマイルキャンパス^{※2}）は、昭和54（1979）年に4年制の大学として開校した歴史ある学びの場です。4年間のカリキュラムを通して、趣味活動や社会参加による生きがいを高めたり、交友を深めたりすることを目的としています。令和3（2021）年度までに4,309名の卒業生を輩出しています。卒業後も、仲間との絆を深め、クラブ活動を継続したり、作品展や発表会等で成果を発表したり活躍しています。
- ④ 久喜市放課後子ども教室（ゆうゆうプラザ）は、平成17（2005）年6月に開校した「くきっ子ゆうゆうプラザ（久喜小学校）」を皮切りに、市内すべての小学校で実施され、「友」だちと思いっきり「遊」んでほしいとの願いから「ゆうゆうプラザ」の名称で親しまれています。様々な生涯学習に携わる地域住民の協力のもと、学校・家庭・地域が一体となり、子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進しています。
- また、平成29（2017）年4月から、市内すべての小・中学校がコミュニティ・スクール^{※3}となり、「地域とともにある学校づくり」を推進するとともに、令和3（2021）年5月には久喜市地域学校協働活動推進員^{※4}を委嘱し、「学校を核とした地域づくり」についても推進しています。
- ⑤ 「久喜市民まつり」「菖蒲産業祭」「赤花そば栗橋やさしさときめき祭り」「鷲宮コスモスフェスタ」等のイベントで社会教育団体の積極的な参画協力が多く見られます。また、市内には国指定無形民俗文化財の「鷲宮催馬楽神楽」や市指定の無形民俗文化財である「除堀の獅子舞」等、多くの伝統芸能があり、地域住民の手によって継承されています。

※1まなびすとカレッジ：久喜市市民大学の愛称。

※2スマイルキャンパス：久喜市高齢者大学の愛称。

※3コミュニティ・スクール：「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、「学校運営協議会」を設置した学校のこと。久喜市では、すべての小・中学校がコミュニティ・スクールとなっている。

※4久喜市地域学校協働活動推進員：「社会教育法」に基づき、久喜市教育委員会が委嘱する地域住民等と学校との連絡調整等を行うコーディネーター。久喜市立小学校又は市立中学校の学区ごとに推進員を2名程度置いている。

- ⑥ 令和4(2022)年3月、久喜市鷲宮総合支所5階に、生涯学習推進部、市民大学、高齢者大学の活動拠点として、生涯学習施設「まなびすポット」を開所しました。今後、本市の生涯学習の拠点として、市民の多様なニーズに対応した学習内容や発表機会を設け、生涯にわたる学びを推進していきます。

2 基本方針

市民一人ひとりの生涯学習を推進するための方向性を明確にするため、3つの基本方針を定めます。

(1) 主体的な学びで、自らの生きがいにつなげる(自主)

市民一人ひとりが「生きがい」のある、「心豊かな」充実した人生を送るために、いつでも、どこでも、だれでも学ぶことができ、学びをとおして自らを高め、いく生涯学習を推進します。

(2) 市民と行政がともに学び、まちづくりを推進する(協働)

市民と行政がそれぞれの立場や役割を自覚し、実践活動を通じて協力関係を深め、市民と行政の協働による生涯学習を推進します。

(3) 学びをとおしてコミュニティが充実し、

だれもが住みやすいまちをつくる(創造)

身近な生活課題や地域の課題を学びあう活動が盛んになることで、コミュニティが充実し、潤いと活力に満ちた、だれもが「住んでみたい」「住んでよかった」「今後も住み続けたい」と思えるまちにつながる生涯学習を推進します。

3 基本目標

本市の生涯学習を推進するため、基本的な考え方を4つの基本目標として施策を推進します。

(1) 学ぶ～様々な学びの提供～

市民一人ひとりが生涯にわたって、だれでも、いつでも、どこでも、それぞれのライフステージに応じて、主体的に学び続けることができる学習環境が整備されたまちを目指します。また、社会的課題や市民ニーズを把握するとともに、様々な人々が、ともに学び、ともに生き、社会参加できる共生社会の実現につなげていきます。

また、新たに整備された生涯学習施設「まなびすポット」では、市民大学、高齢者大学の学びの拠点として、さらには、様々な生涯学習の機会を提供する場と

して活用していきます。

(2) いかす～学んだことがいかせる機会の充実～

市民意識調査では、学習の成果をいかしている方は9割弱で、「趣味や健康管理」の割合が高く、自分自身の健康にいかしていることが分かりました。

自分自身の健康管理にとどまらず、社会教育の更なる充実につなげるため、学習活動を通じた仲間づくりや様々な活動で培った経験を問題解決にいかす力を養います。

また、個人の学びから、実生活に即した組織的な学習へつなぎ、地域の中でいかすことにより、達成感や生きがいづくりにつながる学習を支援します。

(3) つなぐ～学びでつなぐネットワークの推進～

市民意識調査結果において、市内で生涯学習を行っている方が6割と最も多く、学習方法については、民間の講座やクラブ、サークル等の団体活動、公共施設が行う講座等で学んでいる方が多いことが分かりました。

学んだ成果が日常生活の中でいかされ、相互に結びつき、刺激しあい、充実させるために、人材ネットワーク、施設ネットワーク及び地域ネットワークの充実を図り、市民の生涯学習の機会の整備に努めます。

(4) 支えあう～学びを支えあう体制づくり～

生涯学習は、市民生活全般に関わる広範な領域にわたるため、行政において全庁的な推進体制を整え、久喜市の生涯学習を推進していきます。

また、市民の声に耳を傾け、ニーズを的確に把握する仕組みの充実を図り、市民と行政が一体となって生涯学習を推進します。

未来を担う明るく元気な子どもたちの健やかな成長を学校・家庭・地域が協力して継続的に支えていくことで、久喜市も一層元気になります。あらゆる世代の多くの市民が、地域課題の解決に向けて、地域活動に参画していくことで、地域もさらに元気になります。そのためにも、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育て、新たな交流が生じる仕組みづくりを推進していきます。

4 成果指標

本計画の達成度を図る成果指標として、次の目標を設定します。

[令和9年度]

生涯学習をしている市民の割合 25%

※令和3年度市民意識調査結果では、生涯学習をしている市民の割合は18.4%です。

5 施策の体系

基本理念、基本方針に基づく基本目標を達成するため、本計画期間の5年間で取り組むべき主な施策の展開は、次の体系図に示したとおりです。

